
埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書 第93集

吹 張 遺 跡

2007.10

深谷市教育委員会

埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書 第93集

ふき はり い せき
吹 張 遺 跡

2007.10

深谷市教育委員会



調査区遠景（仙元山を望む）



調査区遠景（祠道山を望む）



調査区全景（北部）



調査区全景（南部）

序

このたび、深谷市教育委員会では、「吹張遺跡」の発掘調査報告書を刊行するはこびとなりました。

吹張遺跡のある人見地区には、仙元山というランドマークがあり、その南麓一帯には埼玉県指定史跡の人見館跡、館跡の確認された押切遺跡といった中世の遺跡や、人見氏との関係の深い一乗寺や深谷上杉氏との関係の深い昌福寺などがあります。今回報告します吹張遺跡からも、中世のものを主体とする区画溝や建物跡、井戸跡などが確認されました。こうしたことから、吹張遺跡を含む仙元山南麓一帯は、中世人見地区の中心地域であったことが窺えます。

現在、深谷市には縄文時代から近現代までの様々な遺跡が残されています。こうした遺跡は、一度消滅すると二度と見ることのできないものであり、これを保護し、後世に伝えていくことは私たちの大きな課題であります。今回の発掘調査の成果を報告書というかたちにまとめ、広く市民の皆様にご紹介することで、郷土の歴史の古さやその優れた文化について、ご理解を深めていただきたいと存じます。また、この報告書が学術研究はもとより、学校、社会教育などの生涯学習活動を通じて、皆様が歴史を考えるための資料として役立つば、望外の喜びであります。

最後に、今回の発掘調査および報告書作成にあたり深いご理解とご協力をいただきました関係者の皆様に心から感謝を申し上げまして序といたします。

平成 19 年 10 月

深谷市教育委員会

教育長 猪野 幸 男

例 言

1. 本書は、埼玉県深谷市人見字吹張 1467 - 1 他における農業集落排水処理施設建設工事に伴う遺跡発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、深谷市教育委員会が主体となり、調査費用は、農家負担分については国庫補助対応、その他については深谷市が負担した。
3. 発掘調査期間は、平成 19 年 1 月 18 日～3 月 16 日である。
4. 発掘調査および整理作業、報告書の執筆は知久裕昭が担当した。なお発掘調査については、板井和哉、佐野良平（技研測量設計株式会社）の補助を受けた。
5. 遺跡の基準点測量及び遺構測量等は、技研測量設計株式会社に委託した。
6. 出土遺物は、深谷市教育委員会が保管している。
7. 発掘調査および報告書の作成にあたっては、次の諸氏から数々のご指導ご助言を賜った。
竹野谷俊夫 永井智教 宮本直樹（敬称略）

凡 例

1. 遺跡原点は、国家方眼座標 $X = 19460.000$ 、 $Y = -50980.000$ である。また、各遺構図における方位指示は、全て座標北を示している。
2. 遺物観察表の記載は、以下のとおりである。
 - ・計測値の単位は cm である。
 - ・器径、器高で（ ）を付したものは推定値を表す。
 - ・胎土は、肉眼で確認できた範囲での含有物を、以下のアルファベットで表した。
A…白色粒子、B…赤色粒子、C…黒色粒子、D…石英、E…角閃石、F…片岩
G…白色針状物質、H…砂礫、I…雲母
3. 遺物の注記、および原因における遺構の略号は、次のとおりである。
掘立柱建物跡…S B、井戸跡…S E、土坑…S K、溝…S D
4. 遺構・遺物実測図の縮尺は、適宜スケールで示した。

発掘調査の組織

発掘調査(平成18年度)

調査主体者	深谷市教育委員会	教育長	猪野 幸男
		教育次長	古川 国康
		次長	中村 信雄
事務局	深谷市教育委員会生涯学習課	課長	澤出 晃越
		主幹兼課長補佐	武井 茂
		課長補佐	大谷 住雄
		文化財保護係長	古池 晋禄
		主査	高村 敏則
		主任	畦元 直大
		主任	荻野 直美
		主任	知久 裕昭
		臨時職員	栗原貴世実

報告書刊行(平成19年度)

調査主体者	深谷市教育委員会	教育長	猪野 幸男
		教育次長	石田 文雄
		次長	中村 信雄
事務局	深谷市教育委員会生涯学習課	課長	澤出 晃越
		主幹兼課長補佐	武井 茂
		文化財保護係長	古池 晋禄
		主査	森下昌市郎
		主査	鳥羽 政之
		主査	高村 敏則
		主任	荻野 直美
		主任	知久 裕昭
		主事補	幾島 審
		臨時職員	栗原貴世実

調査参加者

阿部ルリ子	伊藤 昌	大澤 大美	小野寺和子	江原佳与子	栗原 慶多	小沼 和子
関口由美子	高崎 祐子	滝田 悦子	田代さち子	田中香代子	知久 祥子	富田もえみ
根岸 紀次	浜野 光子	丸山 和枝	横山 明美	除村 敦子	吉野九の枝	吉野真由美

目 次

序	
例言	
凡例	
発掘調査の組織	
I 発掘調査の経過	1
1. 発掘調査に至る経過	1
2. 発掘調査の経過	1
II 深谷市の地理的環境と周辺遺跡の様相	2
III 遺構と遺物	7
1. 掘立柱建物跡	7
2. 井戸跡	8
3. 土坑	8
4. 溝	12
5. その他の遺構	24
IV 調査のまとめ	29
報告書抄録	

挿図目次

第1図 吹張遺跡及び周辺の遺跡分布図	3	第13図 第10・11号溝	14
第2図 吹張遺跡の位置と発掘調査区	4	第14図 第5・7～9・12～15・19・20・22・23号溝	15
第3図 吹張遺跡調査区全体測量図	5	第15図 第16～18・21号溝	17
第4図 第1号掘立柱建物跡	7	第16図 第24～26号溝	19
第5図 第1号井戸跡	8	第17図 第24～26号溝土層断面図(1)	21
第6図 第2号井戸跡	9	第18図 第24～26号溝土層断面図(2)	22
第7図 第3号井戸跡	9	第19図 第27号溝	23
第8図 土坑実測図(1)	10	第20図 自然流路跡	24
第9図 土坑実測図(2)	11	第21図 祠道山周辺の遺構と地形測量図	25
第10図 第1号溝	12	第22図 出土遺物(1)	27
第11図 第2号溝	13	第23図 出土遺物(2)	28
第12図 第3・4号溝	13		

表 目 次

第1表	吹張遺跡及び周辺の遺跡一覧表	3	第3表	出土遺物観察表(2)	29
第2表	出土遺物観察表(1)	28			

図版目次

巻頭図版1	調査区遠景(仙元山を望む)	調査区遠景(祠道山を望む)
巻頭図版2	調査区全景(北部)	調査区全景(南部)
図版1	第1号掘立柱建物跡	第1号掘立柱建物跡P1(1) 第1号掘立柱建物跡P1(2) 第1号掘立柱建物跡P2(1) 第1号掘立柱建物跡P2(2) 第1号掘立柱建物跡P3(1)
図版2	第1号掘立柱建物跡P3(2)	第1号掘立柱建物跡P4(1) 第1号掘立柱建物跡P4(2) 第1号掘立柱建物跡P5 第1号掘立柱建物跡P6(1) 第1号掘立柱建物跡P6(2)
図版3	第1号井戸跡土層断面	第1号井戸跡 第2号井戸跡(1) 第2号井戸跡(2) 第3号井戸跡 第1号土坑
図版4	第2号土坑	第3号土坑 第4号土坑 第5号土坑 第6号土坑 第7号土坑
図版5	第8号土坑	第10号土坑 第11号土坑 第12号土坑 第13号土坑 第15号土坑
図版6	第1号溝	第2号溝 第5～9・15・19号溝 第9～11号溝 第12・13号溝 第14・15号溝
図版7	第22・23号溝	第22・23号溝土層断面 第24～26号溝(1) 第24～26号溝(2) 第24～26号溝土層断面(1) 第24～26号溝土層断面(2)
図版8	第24～26号溝土層断面(3)	第24～26号溝土層断面(4) 調査区中央部(1) 調査区中央部(2) 調査区中央部(3) 調査区中央部(4)
図版9	調査区北部	調査風景(1) 調査風景(2) 調査風景(3) 調査風景(4) 祠道山内溝状遺構
図版10	出土遺物(1)	出土遺物(2) 出土遺物(3)

I 発掘調査の経過

1 発掘調査に至る経過

深谷市は、埼玉県北部に位置し、北を群馬県との境に接する。平成18年1月1日に旧岡部町、旧川本町、旧花園町と合併し、総面積137.58km²、人口約146,500人となった。当地は農業、工業ともに盛んで、古くから深谷ネギの産地としても有名である。歴史的に見ても、後須賀郡、縄文、弥生時代、古墳時代を始め、幡羅郡家や榛沢郡家が造られそれぞれ郡の中心として機能していた奈良～平安時代、また百済木遺跡で郡領クラスの豪族が居宅を営んだ奈良時代、深谷上杉氏の拠点であった室町・戦国時代、宿場町として栄えた江戸時代、そして近・現代まで多くの遺跡、文化財が残され、非常に重要な土地であったことが窺える。鎌倉時代の有力御家人であった畠山重忠の本拠地として、或いは近代日本経済界を築いた渋沢栄一の生地としても良く知られる。

吹張遺跡は、JR深谷駅より南西へ約2.4km、擁護台地に立地する。標高は約67m、遺跡の範囲は約184,000m²と推定される。北に約500mには、水河期の名残りと思われる仙元山があり、その南麓には館跡が確認された押切遺跡や深谷上杉氏との関係が深い昌福寺がある。また、吹張遺跡に隣接して埼玉県指定史跡の人見館跡があり、吹張遺跡を含む一帯は中世において重要な地域であったことが窺える。

そのため、深谷市教育委員会では、吹張遺跡周辺の広い範囲を重要な埋蔵文化財包蔵地であると考え、事前調査等を行ってきた。

平成18年5月、吹張遺跡地内の深谷市人見字吹張1467-1他で農業集落排水処理施設建設工事の実施が明らかとなった。深谷市教育委員会は工事担当部局である深谷市建設部集落排水課との協議を経て、平成18年8月1日～3日に当該地の確認調査を実施した。調査の結果、溝状遺構が多数確認された。この結果を踏まえ、発掘調査の実施について、市教育委員会と市

集落排水課とで協議を行い、工事予定地のほぼ全域について、市教育委員会が主体となって発掘調査を実施することで合意した。

市教育委員会は直ちに、文化財保護法第99条の規定に基づき、埋蔵文化財発掘調査通知（平成19年1月9日付深教生発第875号）を提出し、準備に入った。

2 発掘調査の経過

吹張遺跡発掘調査の経過は、概ね以下の通りである。

- 1月15日(月)～2月9日(金)北東半調査区表土剥ぎ。
- 1月17日(水)器材搬入。
- 1月18日(木)～22日(月)遺構確認。
- 1月22日(月)～1月30日(火)遺構掘削。
- 1月23日(火)～2月1日(木)遺構測量。
- 1月31日(水)～2月1日(木)調査区清掃。
- 2月2日(金)空中写真撮影。補足調査。
- 2月5日(月)～6日(火)補足調査。
- 2月6日(火)北東半調査区の調査終了。
- 2月6日(火)～9日(金)北東半調査区埋め戻し。
- 2月15日(木)～3月1日(木)南西半調査区表土剥ぎ。
- 2月19日(月)～21日(水)遺構確認。
- 2月22日(木)～26日(月)遺構測量。
- 2月27日(火)～3月13日(火)遺構掘削。
- 3月14日(水)～15日(木)調査区清掃。
- 3月15日(木)空中写真撮影。補足調査。南西半調査区の調査終了。
- 3月16日(金)器材撤収。
- 3月19日(月)～23日(金)南西半調査区埋め戻し。

II 深谷市の地理的環境と周辺遺跡の様相

深谷市の地形を概観すると、東西に走るJR高崎線付近を境として、南側に櫛挽台地が広がり北側には妻沼低地が形成されている。櫛挽台地は荒川によって作られた古い扇状地が浸食されてできた沖積台地で、寄居付近を頂部としている。妻沼低地は、利根川の自然堤防及び沖積低地であり、加須低地と並び利根川の中流低地の一つに数えられる。

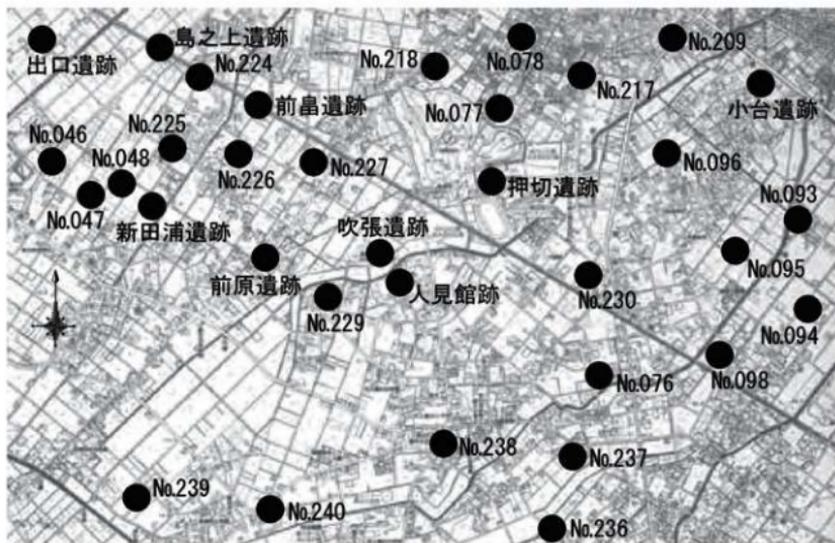
櫛挽台地は構造的には、北西側の武蔵野面に比定される櫛挽面（櫛挽段丘）と、南東側の立川面に比定される寄居面（御後ヶ原段丘）とで段丘状に形成されている。櫛挽面は標高70m付近より発する上唐沢川、押切川、戸田川、唐沢川などが北流していて、櫛挽面北端部は南北に台地を貫する浅い谷が発達したものと考えられる。寄居面にはこうした谷筋はほとんど認められず、妻沼低地と接する台地末端部を除き、水利上は生活に不向きだったと考えられる。

妻沼低地は、利根川右岸に広がる肥沃な低地である。南は熊谷市付近を境として秩父山塊に連なる丘陵や台地と大宮台地に挟まれた荒川低地に続き、東は加須低地に接する。現在ではかなり平坦であるが、利根川の氾濫や流路の変遷などにより、自然堤防が発達したものと考えられる。

深谷市内で確認されている旧石器時代の遺跡は多くはないが、荒川右岸の江南台地上には、細石刃や彫刻刀形石器が出土した白草遺跡等がある。縄文中期、特に後半になると遺跡数やその規模は増大する。上野台の小台遺跡は、多量の土器や石器を包含する埋没谷を中心に住居や土坑群が展開する。小台遺跡と時間的に重なる遺跡は数多い。縄文後・晩期になると、生活域の中心は櫛挽台地から妻沼低地へと移っていく。上敷免遺跡では、包含層から在地の後・晩期の資料に混じり、東海系条痕文土器が検出されたり、埼玉県では初の遠賀川系の壺が検出されるなど、他地域との交流を考えさせられる。弥生時代に入ると、上敷免遺跡で中期の再葬墓と、若干時期が下る住居跡が同一の自然堤

防上に確認されている。岡の四十坂遺跡も該期の代表的な遺跡である。古墳時代後期前半になると遺跡数は爆発的に増加し、妻沼低地の自然堤防上に大規模な集落が営まれる。この時期に小規模な円墳が数多く造られるようになり、幾つかの古墳群を形成する。代表的なものに、櫛挽台地の先端部に形成される木の本古墳群や白山古墳群がある。律令期には、深谷市の東部は幡羅郡、西部は榛沢郡、南部は男衾郡に属すると考えられる。榛沢郡の郡家跡は岡の中宿遺跡で発見されている。また、幡羅郡家跡である東方の幡羅遺跡は、その範囲、内容を確認するための調査が継続中である。

平安時代末期以降は、猪俣党武士団の居館が各地に出現する。代表的なのは、県指定史跡にもなっている人見館跡である。また、鎌倉街道上道の跡が、旧川本町域から旧花園町域に残る。そして室町時代以降は深谷上杉氏が活躍する。深谷上杉氏は、当初宇和郡に居を構えたと言われるが、5代目房憲の時に、古河公方勢力との戦闘に備え、より堅固な深谷城に移ったとされる。深谷城跡の北東約1kmには、深谷上杉氏の宿老岡谷香丹が築いたと言われる皿沼城跡があり、北方の守りを堅固なものにしている。また、香丹が隠居後に移ったとされる曲田城跡が北西にある。東に約3kmの台地の先端部には東方城跡がある。周辺には他に家臣の館が分布していたと思われ、南方約1.8kmには、家臣の館跡である秋元氏館跡、南西約2.8kmには、古河公方勢力を牽制し人見地域を防衛するために築かれたと考えられる館跡が検出された押切遺跡が存在する。また、割山西遺跡では、伝承などが一切残っていないが、方形の区画溝が検出され、館跡と考えられている。仙元山南麓の押切遺跡西隣に位置する昌福寺は、房憲が創建したとされる。江戸時代になると、深谷城は程なく廃城となり、深谷の大部分は天領となる。また、岡部には岡部藩があり、陣屋が構えられた。



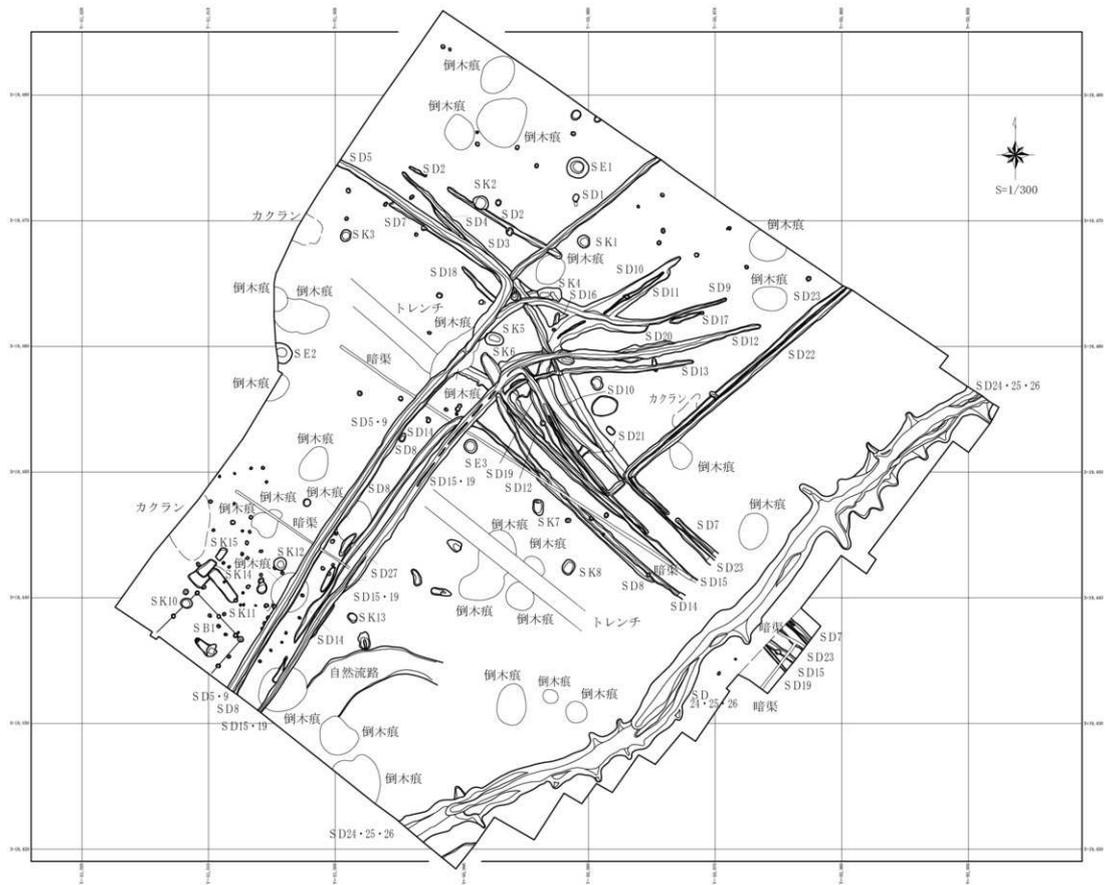
第1図 吹張遺跡及び周辺の遺跡分布図 (S = 1 / 10,000)

遺跡名称	時代	遺跡名称	時代
吹張遺跡	縄文早期・中期、古墳後期～近世	No.095	縄文早期・中期、古墳後期～平安
人見館跡	鎌倉、室町	No.096	縄文中期
押切遺跡	中世	No.098	縄文中期
出口遺跡	縄文中期・後期、近世	No.209	縄文中期、古墳後期
島之上遺跡	縄文中期・後期	No.217	縄文前期・中期、古墳後期～平安
前島遺跡	縄文中期	No.218	縄文中期
新田浦遺跡	縄文中期、平安、近世	No.224	縄文中期
前原遺跡	縄文中期	No.225	縄文中期
小台遺跡	縄文早期～後期、古墳後期～平安	No.226	縄文
No.046	縄文中期、古墳後期～平安	No.227	縄文中期
No.047	縄文中期	No.229	縄文中期
No.048	縄文中期	No.230	縄文中期
No.076	縄文中期	No.236	縄文
No.077	縄文中期、古墳後期～平安	No.237	古墳後期～平安
No.078	縄文中期	No.238	奈良、平安
No.093	縄文中期・後期、古墳後期～平安	No.239	縄文
No.094	縄文中期・後期	No.240	縄文中期

第1表 吹張遺跡及び周辺の遺跡一覧表



第2図 吹張遺跡の位置と発掘調査区 (1 / 2,500)



第3図 吹張通跡調査区全体測量図

ピットは径30～40cm、確認面からの深さは10～20cmを測り、覆土は硬く締まっている。P5からは、茶白受け皿部分の一部と思われる石製遺物の破片が出土した(第22図4)。

2 井戸跡

第1号井戸跡(第5図)

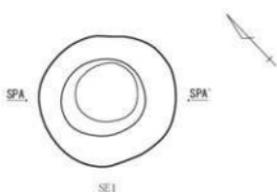
調査区北部に位置する。平面形態は円形で、直径約1.7mを測る。確認面からの深さは1.9mで、断面形態は漏斗状を呈する。

遺物は、青磁碗や硬質陶器甕破片等が出土した。図示できた遺物は、砥石2点である(第22図5・6)。

第2号井戸跡(第6図)

調査区西部に位置する。西側は調査区外にあるが、平面形態は直径1.6mの円形と思われる。確認面付近からは碑が多く出土した。断面形態は漏斗状を呈する。確認面からの深さ2.6mまで掘削したが、崩落の恐れがあったため、危険回避のため底面までの掘削を断念した。

図示できた遺物は、硬質陶器甕破片2点である(第22図7・8)。



SP1土層説明 (SPA*)

- 1 10K22 黒褐色 土壌状中層、ロームブロック・炭化物少量含む。軽微な、トンズ区の特徴。自然堆積土。
- 2 10K23 緑褐色 ロームブロック少量、腐植層。自然粘土ブロック少量。炭化物・焼土少量含む。軽微な、裏込めの面層部。
- 3 10K24 緑褐色 ロームブロック少量、自然粘土ブロック少量。炭化物・焼土少量含む。自然堆積土。
- 4 10K25 緑褐色 ローム少量含む。しきり有。裏込め小片。
- 5 10K26 黒褐色 ローム少量含む。しきり有。裏込め小片。
- 6 10K27 土白(黄褐色) ローム少量含む。しきり有。裏込め小片。
- 7 10K28 緑褐色 ローム少量含む。ロームブロック少量含む。しきり有。裏込め小片。
- 8 10K29 緑褐色 ロームブロック少量含む。しきり有。裏込め小片。
- 9 10K30 黒褐色 黒褐色土層。白ロームブロック少量含む。しきり有。
- 10 10K31 土白(黄褐色) 自然堆積の質上。しきり有。
- 11 10K32 黒褐色 ローム少量。
- 12 10K33 土白(黄褐色) 黒褐色土少量含む。中や砂質。しきり有。
- 13 10K34 黒褐色 土層。中や砂質。しきり有。

第5図 第1号井戸跡

第3号井戸跡(第7図)

調査区北西部に位置する。平面形態は円形で、直径1mを測る。確認面からの深さは1.85mで、断面形態は円柱状である。

図示できる遺物は出土しなかった。

3 土坑

第1号土坑(第8図)

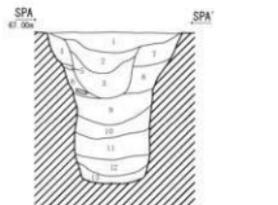
調査区北部に位置する。平面形態はほぼ円形で、直径約1m、確認面からの深さは55cmを測る。底面は平坦で、壁は一部オーバーハングする。

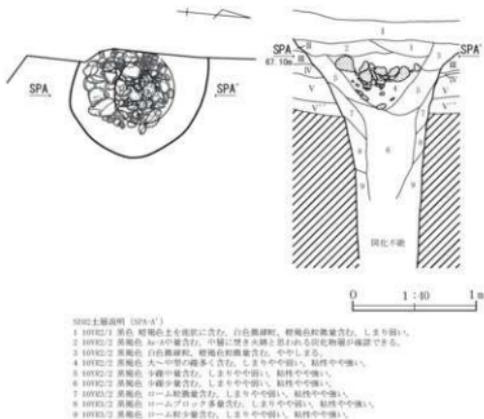
図示できた遺物は、硬質陶器甕の破片1点のみである(第22図9)。外面に淡緑色の釉が薄くかかる。

第2号土坑(第8図)

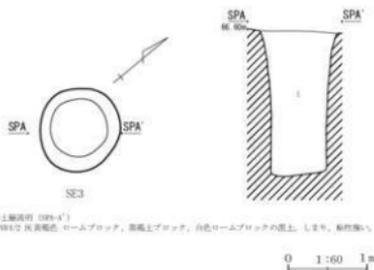
調査区北部に位置し、第2号溝に切られる。平面形態は楕円形で、長径1.3m、短径1.1m、確認面からの深さは60cmを測る。底面はほぼ平坦で、壁は垂直に立ち上がる。

図示できる遺物は出土しなかった。





第6図 第2号井戸跡



第7図 第3号井戸跡

第3号土坑 (第8図)

調査区北西部に位置する。平面形態は楕円形で、長径95cm、短径80cm、確認面からの深さは50cmを測る。底面はほぼ平坦で、壁は垂直に立ち上がる。

図示できる遺物は出土しなかった。

第4号土坑 (第8図)

調査区北部に位置し、第10号溝と切り合う。平面形態は楕円形で、長径1.9m、確認面からの深さ15cmを測る。底面は凹凸がある。

図示できる遺物は出土しなかった。

第5号土坑 (第8図)

調査区中央部に位置する。平面形態は楕円形で、長径1.45m、短径1m、確認面からの深さは30cmを測る。底面はやや凹凸があり、壁は斜めに立ち上がる。

図示できる遺物は出土しなかった。

第6号土坑 (第8図)

調査区中央部に位置し、第8・12・15・20号溝と切り合う。平面形態は楕円形と思われる。長径は不明だが、短径1.1mを測る。主軸方位はN-30°-Wである。底面は南へ向かって緩やかに深くなり、確認面からの深さは最深部で25cmである。

図示できる遺物は出土しなかった。

第7号土坑 (第8図)

調査区中央部に位置する。平面形態は楕円形で、長径1.3m、短径0.8mを測る。底面は北へ向かって深くなり、確認面からの深さは最深部で25cmである。

図示できる遺物は出土しなかった。

第8号土坑 (第8図)

調査区中央部に位置する。平面形態は楕円形で、長径1.15m、短径0.95mを測る。断面形態は皿状で、確認面からの深さは15cmである。

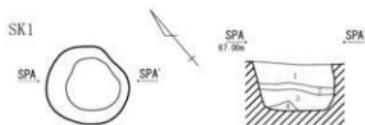
図示できる遺物は出土しなかった。

第10号土坑 (第9図)

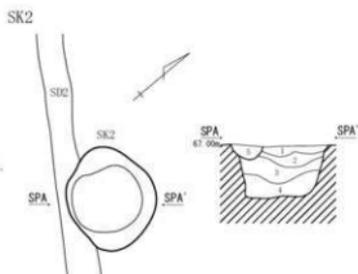
調査区南西部に位置し、第1号掘立柱建物跡と重複する。平面形態はほぼ円形で、直径90cm、確認面からの深さは60cmを測る。底面は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。

第11号土坑 (第9図)

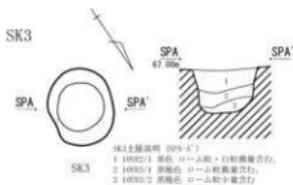
調査区南西部に位置し、第14号土坑と切り合う。平面形態は長方形で、長軸3.1m、短軸0.9m、確認面



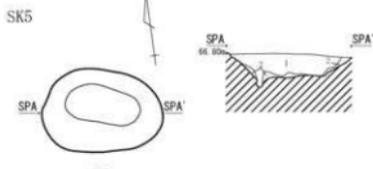
- SK1土層説明 (SP9-4')
 1 1992/1 黒色 ローム状多量、ロームブロック中量、白砂状層を含む。
 2 1992/2 黒色 ロームブロック中量を含む。多量腐敗層の残っているロームブロックが層的に残っている。
 3 1992/3 黒褐色 ロームブロック・ローム状多量、粘褐色ブロックの層に散見する。
 4 1992/6 明褐色層 礫山土。ゴブゴブとしておろすワタリメシが散見する。



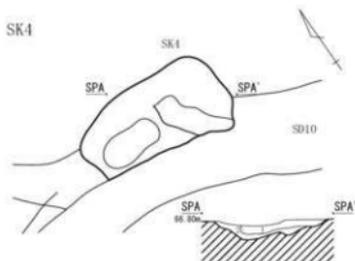
- SK2土層説明 (SP9-4')
 1 1992/3 黒褐色 ロームブロック・ローム状・白色砂状層を含む。
 2 1992/7~1992/8 黒褐色~暗褐色 ローム状中量。ロームブロック少量含む。
 3 1992/3 黒褐色 表面の土ブロックを多量、ローム状を散見する。
 4 1992/2 暗褐色 ローム状少量、ロームブロック少量含む。不規則な堆積。
 5 1992/4 黒色 白砂・粘褐色砂状層を含む。 (SK2層上)



- SK3土層説明 (SP9-4')
 1 1992/1 黒色 ローム状・白砂状層を含む。
 2 1992/3 黒褐色 ローム状層を含む。
 3 1992/2 黒褐色 ローム状少量を含む。



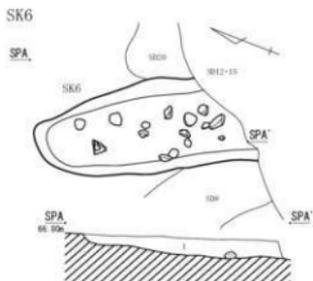
- SK5土層説明 (SP9-4')
 1 1992/1 黒色 白砂少量、粘褐色砂状層を含む。
 2 1992/4 褐色 ロームブロック散見する。礫山土の境界はC.M.ありしている。



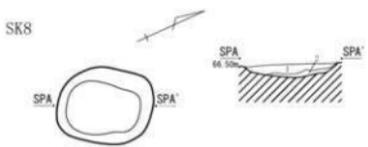
- SK4土層説明 (SP9-4')
 1 1994/2 灰黒褐色 ロームブロック中量、ローム状少量、h-h散見する。砂状。
 2 1992/2 黒褐色 ロームブロック・ローム状少量含む。黄褐色。土中の礫土ではない。



- SK7土層説明 (SP9-4')
 1 1992/1 黒褐色 ローム状少量を含む。
 2 1994/2 緑灰色 黄色い マンガン鉄・マンガン酸少量を含む。礫山土の境界はC.M.ありしている。



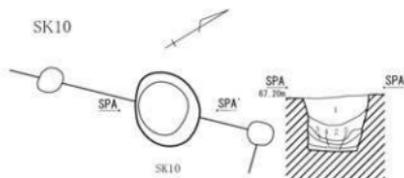
- SK6土層説明 (SP9-4')
 1 1992/2 黒褐色 ロームブロック・ローム状多量を含む。



- SK8土層説明 (SP9-4')
 1 1992/3 黒褐色 ローム状少量を含む。2層ローム土中に含む。
 2 1992/6 明褐色 1層土中に含む。礫山土ではない。

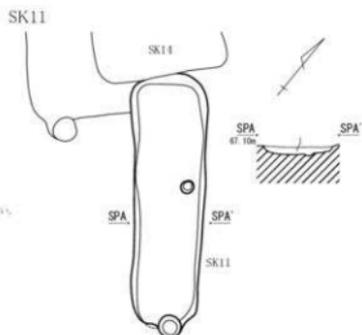


第8図 土坑実測図(1)



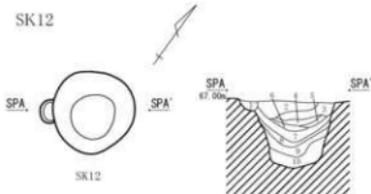
SK10土層説明 (SPA-B)

- 1 10R2/1 黒褐色 ロームブロック・ローム粒を含む。粘土粒、石灰物繊維を含む。しまりやや強い、粘性强中強い。
- 2 10R2/2 黒褐色 ローム粒を含む。しまりやや強い、粘性强中強い。
- 3 10R2/3 黒褐色 ロームブロック多量に含む。しまりやや強い、粘性强中強い。
- 4 10R2/4 黒褐色 ローム粒少量を含む。しまりやや強い、粘性强中強い。
- 5 10R2/5 黒褐色 ロームブロック多量に含む。しまりやや強い、粘性强い。



SK11土層説明 (SPA-B)

- 1 10R2/2 黒褐色 ロームブロック (R) 、ローム粒、粘土粒を含む。しまり、粘性强中強い。



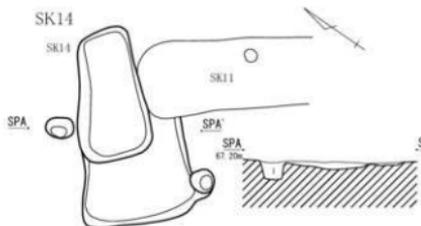
SK12土層説明 (SPA-B)

- 1 10R2/1 黒色 ローム粒少量を含む。しまり、粘性强中強い。
- 2 10R2/2 暗褐色 粘土層が厚層。ロームブロック (R) 少量を含む。しまり、粘性强い。
- 3 10R2/4 暗褐色 粘土層。ロームブロック (R) 中量を含む。しまり、粘性强中強い。
- 4 10R2/5 黒色 粘土層。ローム粒多量を含む。しまり、粘性强中強い。
- 5 10R2/3 暗褐色 ロームブロック多量を含む。しまり、粘性强中強い。
- 6 10R2/2 黒色 ローム粒少量を含む。しまり、粘性强中強い。
- 7 10R2/1 黒色 ロームブロック少量を含む。しまり、粘性强中強い。
- 8 10R2/3 暗褐色 ローム粒多量を含む。しまり、粘性强中強い。
- 9 10R2/4 暗褐色 ローム粒中量を含む。しまり、粘性强中強い。
- 10 10R2/5 黒色 ローム粒中量を含む。しまりやや強い、粘性强い。



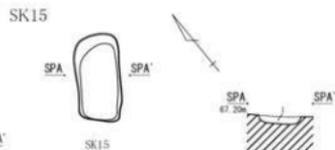
SK13土層説明

- 1 10R2/2 黒褐色 ロームブロック (R) 、石灰質、ローム粒を含む。しまり、粘性强中強い。



SK14土層説明 (SPA-B)

- 1 10R2/2 黒褐色 ロームブロック (R) 、ローム粒、粘土粒を含む。しまり、粘性强中強い。



SK15土層説明 (SPA-B)

- 1 10R2/2 黒褐色 ロームブロック (R) 、ローム粒、粘土粒を含む。しまり、粘性强中強い。



第9図 土坑実測図 (2)

からの深さ10cmを測る。主軸方位はN-40°-Wである。

図示できる遺物は出土しなかった。

第12号土坑 (第9図)

調査区南西部に位置する。平面形態は円形で、直径1m、確認面からの深さは70cmを測る。底面は中央がやや深く、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

図示できる遺物は出土しなかった。

第13号土坑 (第9図)

調査区南西部に位置する。平面形態は楕円形で、長径80cm、短径60cm、確認面からの深さは30cmを測る。底面は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。

図示できる遺物は出土しなかった。

第14号土坑 (第9図)

調査区南西部に位置し、第11号土坑と切り合う。平面形は大小2基の方形土坑が重複する形状を呈する。長軸2.4m、短軸1.25m、確認面からの深さ10cmを測る。主軸方位はN-45°-Eである。

図示できる遺物は出土しなかった。

第15号土坑 (第9図)

調査区南西部に位置する。平面形態は長方形で、長軸1.05m、短軸0.55m、確認面からの深さ10cmを測る。

図示できる遺物は出土しなかった。

4 溝

第1号溝 (第10図)

調査区北部に位置し、第2～4号溝より新しく、他に第5・7号溝と切り合う。主軸方位はN-50°-Eである。幅は約50cm、掘り込み面であるIV層上面からの深さは約40cmを測る。断面形態は箱形で、上部が大きく広がる。

図示できた遺物は、鉄輪のかかる灯明皿1点である

(第22図14)。

遺構の時期は、近世と思われる。

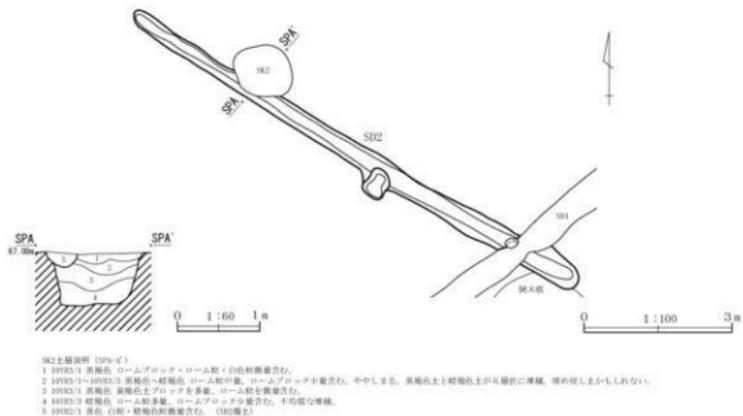
第2号溝 (第11図)

調査区北部に位置し、第2号土坑を切り、第1号溝に切られる。主軸方位はN-60°-Wである。幅は約40cm、確認面からの深さは約15cmを測る。断面形態は碗形である。

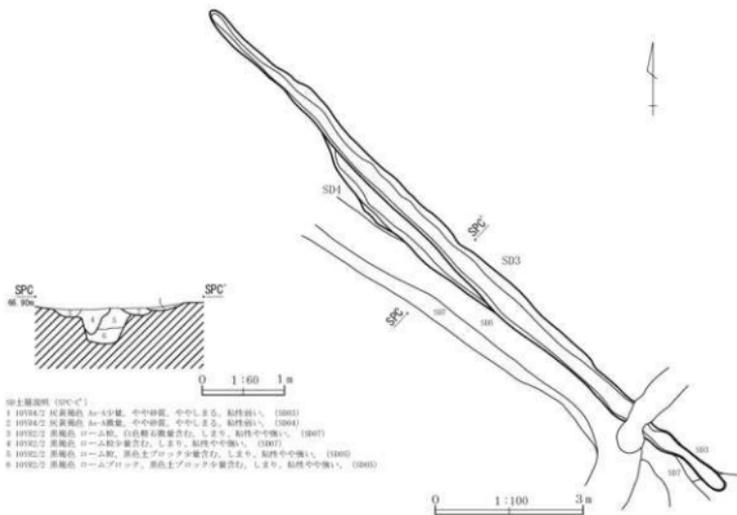
図示できる遺物は出土しなかった。



第10図 第1号溝



第11図 第2号溝



第12図 第3・4号溝

第3号溝 (第12図)

調査区北部に位置し、第4・5号溝を切り、他に第7号溝と切り合う。主軸方位はN-50°-Wである。幅は約40cm、確認面からの深さは約5cmと極めて浅い。

図示できる遺物は出土しなかった。

第4号溝 (第12図)

調査区北部に位置し、第5号溝を切り、第3号溝に

切られる。主軸方位はN-50°-Wである。幅は不明で、確認面からの深さは約10cmを測る。

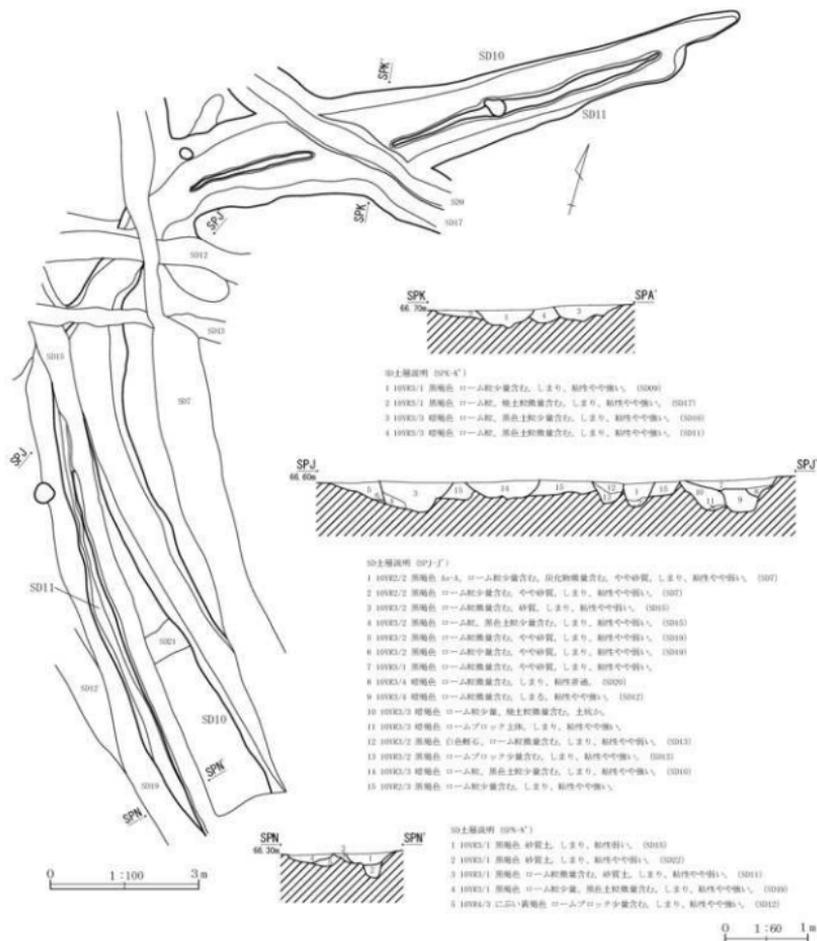
図示できる遺物は出土しなかった。

第5号溝 (第14図)

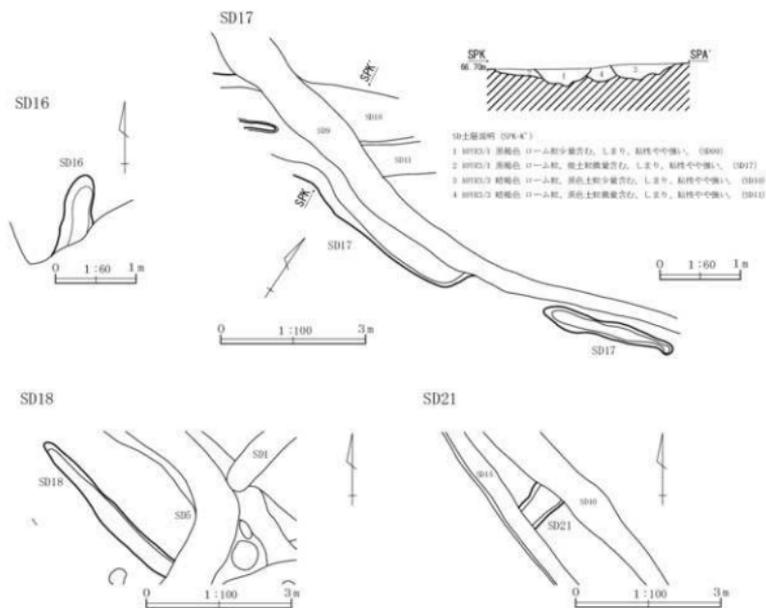
調査区西部に位置する。直角に曲がるコーナーを持つ

つ区画溝と考えられる。第3・4・7～9号溝より古く、主軸方位はN-50°-W及びN-45°-Eである。幅は約70cm、確認面からの深さは約50cmを測る。断面形態は箱形である。

帰属する遺物は、第22図10、第23図23である。10は青磁皿、23は常滑焼の甕である。他に第22図11・



第13図 第10・11号溝



第15図 第16～18・21号溝

19・22・26がこれに帰属する可能性がある。
遺構の時期は中世と思われる。

遺物は、第22図11、第23図22が帰属する可能性がある。

第7号溝 (第14図)

調査区北部から中央部にかけて位置し、やや蛇行する。第5・15・23号溝より新しく、主軸方位はN-30°～50°-Wである。幅は約70cm、掘り込み面であるⅢ層上面からの深さは約30cmを測る。

遺物は、第22図19が帰属する可能性がある。

第9号溝 (第14図)

調査区北部から西部に位置する。第5・11・17号溝を切り、第8号溝に切られる。調査区ほぼ中央で東にやや曲がる。主軸方位はN-45°～90°-Eである。幅は約50cm、掘り込み面であるⅣ層上面からの深さは約30cmを測る。

帰属する遺物は、硬質陶器の甕(第23図21)である。他に第22図11、第23図26が帰属する可能性がある。

第8号溝 (第14図)

調査区南半分に位置する。第5・9号溝を切り、第14号溝に切られる。調査区ほぼ中央でほぼ直角に曲がる。主軸方位はN-40°-E及びN-30°-Wである。幅は約50cm、掘り込み面であるⅡ層上面からの深さは約40cmを測る。

第10号溝 (第13図)

調査区中央部に位置し、第11号溝を切る。他に第7・9・12・13・21・22号溝と切り合う。弧を描くように曲がる。主軸方位はN-40°-W～N-55°-Eである。

幅は約1m、確認面からの深さは約20cmを測る。

遺物は、第22図18、第23図20が帰属する可能性がある。

第11号溝 (第13図)

調査区中央部に位置し、第9・10号溝に切られる。主軸方位はN-55°-Eである。幅は約70cm、確認面からの深さは約15cmを測る。

遺物は、第22図18、第23図20が帰属する可能性がある。

第12号溝 (第14図)

調査区中央部に位置し、第8・11・15・19・20・22号溝より古い。やや鋭角に曲がる。主軸方位はN-80°-E及びN-50°-Wである。幅は約70cm、確認面からの深さは約40cmを測る。

帰属する遺物は、第22図12、第23図25である。12は青磁碗の底部、25は硬質陶器の甕である。外面に緑色釉が薄くかかる。他に第23図20が帰属する可能性がある。

遺構の時期は中世と思われる。

第13号溝 (第14図)

調査区中央部に位置し、第7・10・15号溝と切り合う。主軸方位はN-85°-Eである。幅は約50cm、断面形態は箱形を呈し、確認面からの深さは約20cmである。

遺物は、第23図20が帰属する可能性がある。

第14号溝 (第14図)

調査区南半に位置し、第8・12号溝より新しい。調査区中央でほぼ直角に曲がる。主軸方位はN-40°-E及びN-50°-Wである。幅は約50cm、断面形態は皿状で、掘り込み面であるIV層上面からの深さは約20cmである。

帰属する遺物は、砥石1点である(第23図27)。

第15号溝 (第14図)

調査区南半に位置し、第11・19・22号溝を切る。調

査区中央でほぼ直角に曲がる。主軸方位はN-40°-E及びN-45°-Wである。幅は約50cm、掘り込み面であるIII層上面からの深さは約50cmを測る。

遺物は、第22図16、第23図20が帰属する可能性がある。

第16号溝 (第15図)

調査区中央に位置し、第10号溝と切り合う。主軸方位はN-5°-Eで、幅約40cmを測る。

図示できる遺物は出土しなかった。

第17号溝 (第15図)

調査区中央部に位置し、第9号溝に切られる。主軸方位はN-80°-Wで、確認面からの深さは約10cmを測る。

図示できる遺物は出土しなかった。

第18号溝 (第15図)

調査区中央部に位置し、第5号溝と切り合う。主軸方位はN-45°-Wで、幅約30cmを測る。

図示できる遺物は出土しなかった。

第19号溝 (第14図)

調査区中央部に位置し、第15号溝に切られる。主軸方位はN-40°-Eで、確認面からの深さは約20cmを測る。

帰属する遺物は、第22図17の鉢である。他に第22図16、第23図20が帰属する可能性がある。

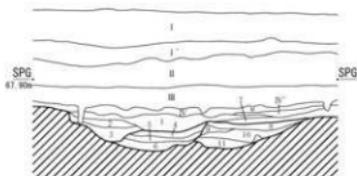
第20号溝 (第14図)

調査区中央部に位置し、第12号溝を切る。主軸方位はN-80°-Eで、確認面からの深さは約15cmを測る。

遺物は、第23図20が帰属する可能性がある。

第21号溝 (第15図)

調査区中央部に位置し、第10・15号溝と切り合う。主軸方位はN-40°-Eで、幅約50cmを測る。



SD24・25・26土層説明 (SPG-G')

- 1 N2/ 黒色 黒色粘土主体 よくしまる。粘性非常に強い。(SD24)
- 2 N3/ 暗灰色 細粒砂主体。黒色粘質土微量含む。しまり、粘性やや弱い。(SD24)
- 3 N2/ 黒色 黒色粘質土主体。しまりやや強い。粘性強い。(SD24)
- 4 10YR6/2 灰黄褐色 細粒砂主体。しまり、粘性弱い。(SD25)
- 5 10YR4/2 灰黄褐色 細粒砂主体。黒色粘質土少量含む。しまり、粘性弱い。(SD25)
- 6 10YR6/2 灰黄褐色 砂利主体。しまり、粘性やや弱い。(SD25)
- 7 10YR3/3 暗褐色 細粒砂中量含む。しまり、粘性やや強い。
- 8 10YR6/2 灰黄褐色 細粒砂主体。黒色粘質土少量含む。しまりやや弱い。粘性弱い。(SD26)
- 9 10YR6/2 灰黄褐色 細粒砂と黒色粘質土の混り。しまり、粘性やや弱い。(SD25)
- 10 10YR6/2 灰黄褐色 細粒砂主体。黒色粘質土微量含む。しまり弱い。粘性やや弱い。(SD26)
- 11 10YR4/2 灰黄褐色 砂利主体。中型礫多く含む。ややしまる。粘性弱い。(SD26)



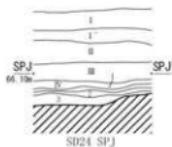
SD24・25・26土層説明 (SPH-H')

- 1 N2/ 黒色 白色ローム粒少量含む。しまり、粘性非常に強い。
- 2 10YR8/2 灰白色 白色ローム主体。黒色粘質土ブロック少量含む。しまり、粘性非常に強い。



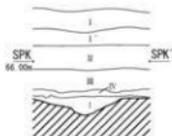
SD24・25・26土層説明 (SPI-I')

- 1 N2/ 黒色 黒色粘質土主体。しまり強い。粘性非常に強い。
- 2 N2/ 黒色 黒色粘質土主体。砂少量含む。しまり強い。粘性非常に強い。
- 3 10YR8/2 灰白色 黒色粘質土主体。白色ロームブロック中量。砂少量含む。しまり強い。粘性非常に強い。



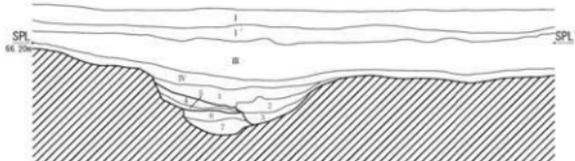
SD24土層説明 (SPJ-J')

- 1 10YR3/3 暗褐色 白色粒少量含む。しまる。粘性強い。
- 2 10YR3/3 暗褐色 白色粒が多く見られる。しまる。粘性弱い。As-B混土(?)。
- 3 N2/ 黒色 黒色粘土主体 よくしまる。粘性非常に強い。(SD24)



SD24・25・26土層説明 (SPK-K')

- 1 10YR3/3 暗褐色 黒色粘質土主体。細粒砂少量含む。しまり、粘性非常に強い。

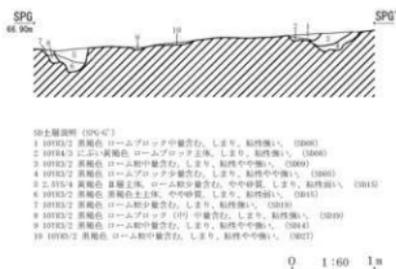
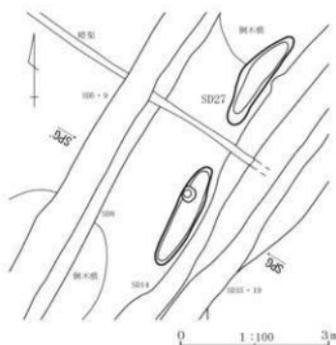


SD24・25・26土層説明 (SPI-L')

- 1 N2/ 黒色 黒色粘土主体 よくしまる。粘性非常に強い。(SD24)
- 2 N2/ 黒色 黒色粘質土主体。しまりやや強い。粘性強い。(SD24)
- 3 N3/ 暗灰色 細粒砂少量含む。しまり、粘性やや強い。(SD24)
- 4 10YR4/2 灰黄褐色 細粒砂主体。黒色粘質土少量含む。しまり、粘性弱い。(SD25)
- 5 10YR6/2 灰黄褐色 細粒砂主体。砂利含む。しまり、粘性弱い。(SD25)
- 6 10YR6/2 灰黄褐色 細粒砂と黒色粘質土の混り。しまり、粘性やや弱い。(SD26)
- 7 10YR4/2 灰黄褐色 砂利主体。中型礫多く含む。ややしまる。粘性弱い。(SD26)



第18図 第24～26号溝土層断面図(2)



第19図 第27号溝

図示できる遺物は出土しなかった。

第22号溝 (第14図)

調査区東部に位置し、第23号溝と平行する。主軸方位はN-50°-Eで、幅約50cm、確認面からの深さは約15cmを測る。

遺物は、第23図24が帰属する可能性がある。

第23号溝 (第14図)

調査区東部に位置し、第7号溝と交差する箇所直角に曲がる。主軸方位はN-50°-E及びN-50°-Wで、幅約50cm、掘り込み面のⅢ層上面からの深さは約40cmを測る。

帰属する遺物は、硬質陶器の環(第22図13)と軟質陶器の鉢(第22図15)である。第22図13は外面に円形の貼付部分があり、内面に透明軸がかかる。他に第23図24が帰属する可能性がある。

第24～26号溝 (第16～18図)

調査区南東隅から北東隅へと延びる台地の縁を、やや蛇行して走る。幅2～3mを測り、主軸方位はN-45°-Eである。土層観察から3時期に分かれ、本道跡で一番古い時期の道槽と想定される。出土遺物は無かつ

たが、溝底面から流木が出土した。

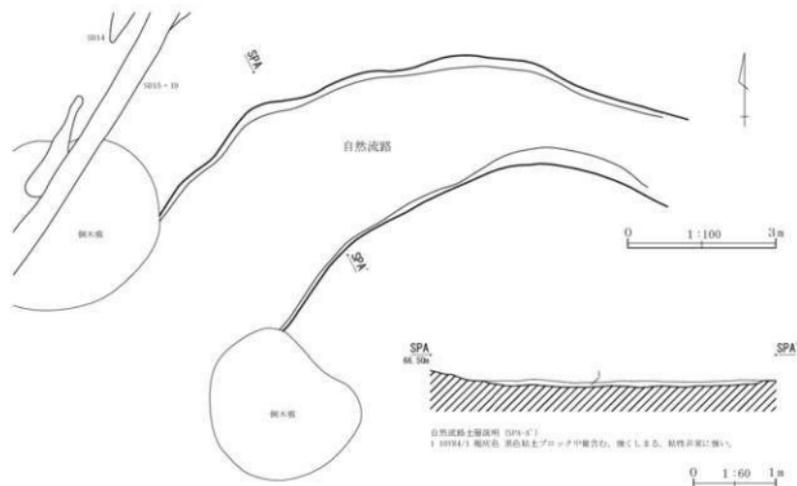
最も古い段階の第26号溝は確認面から約55cmの深さで、場所によっては底面が礫層上部まで掘り下げられている。次の第25号溝は、確認面からの深さが約40cmを測り、覆土は主に砂や砂利である。最も新しい第24号溝はやや東寄りに流路が走り、所々で第25・26号溝と分岐する。確認面からの深さは約35cmで、覆土は主に黒色粘質土である。

溝の所々に張り出し部がみられ、兩岸で対になるものと片岸だけのものがある。覆土は黒色粘質土であるため、第24号溝の時期まで存続していたものと思われる。

第27号溝 (第19図)

調査区南西部に位置する。断片的に確認されたもので、幅約50cm、確認面からの深さは極めてわずかで、主軸方位はN-30°-Eである。

図示できる遺物は出土しなかった。



第20図 自然流路跡

5 その他の遺構

自然流路跡 (第20図)

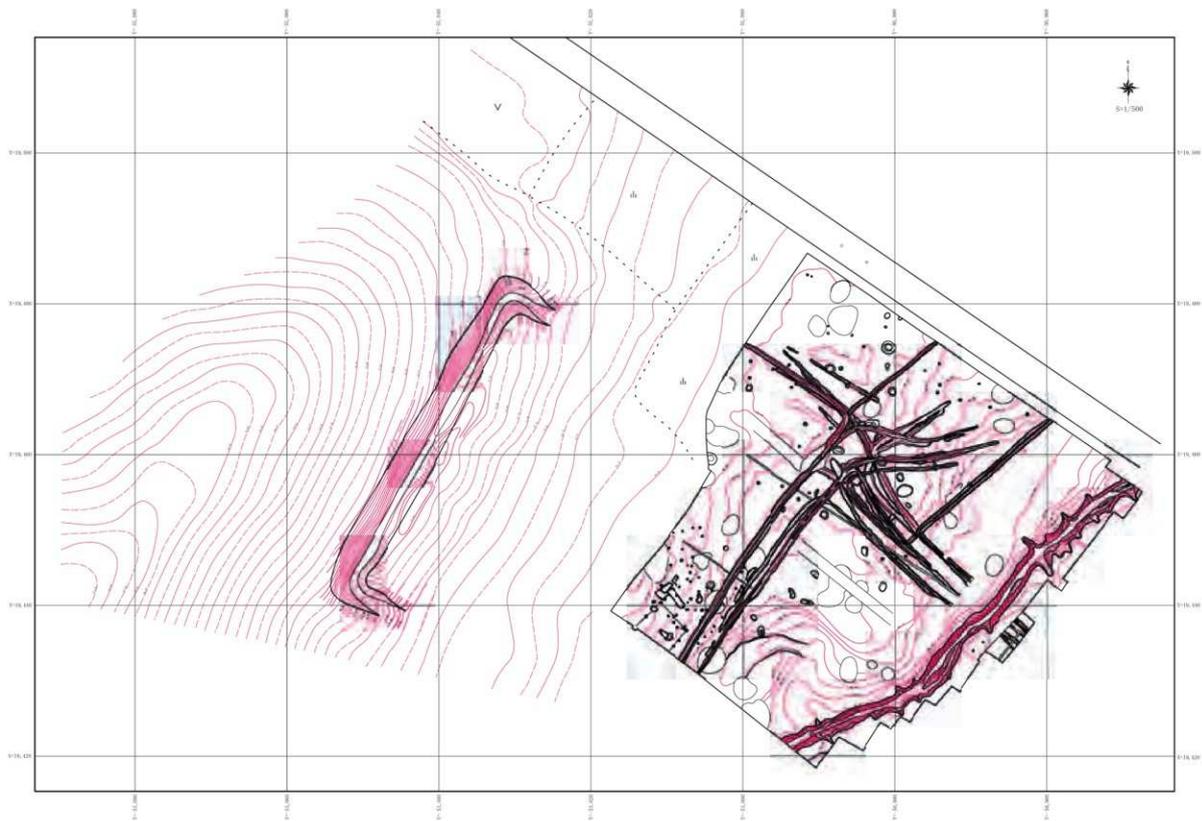
調査区南部に位置する。幅1.5～3m、確認面からの深さは約10cmを測る。遺物は出土しなかった。

祠道山内溝状遺構 (第21図)

調査区外北西部にある祠道山内を踏査中に発見された。斜面を掘り込んで堀と土塁に見立てているような状況である。約45m真っ直ぐに溝が伸び、両側に調査

区方向へ直角に屈曲するコーナーをもつ。南東側を区画するものと思われる。

調査区内でこれに関連する可能性の最も高い遺構は第5号溝である。しかし、コーナーの位置は約4mずれており、同一の遺構であった場合、方形の区画とはならない。また、今回測量までは至らなかったが、山の西麓でも同様の遺構がある可能性が確認された。



第21図 祠道山周辺の遺構と地形測量図

縄文時代の遺物



1



2



3

第1号竪立柱建物跡出土遺物

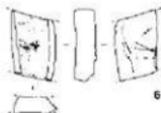


4

第1号井戸跡出土遺物



5



6

第2号井戸跡出土遺物



7



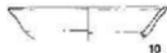
8

第1号土坑出土遺物



9

溝出土遺物



10



11



12



13



14



15



16



17



18

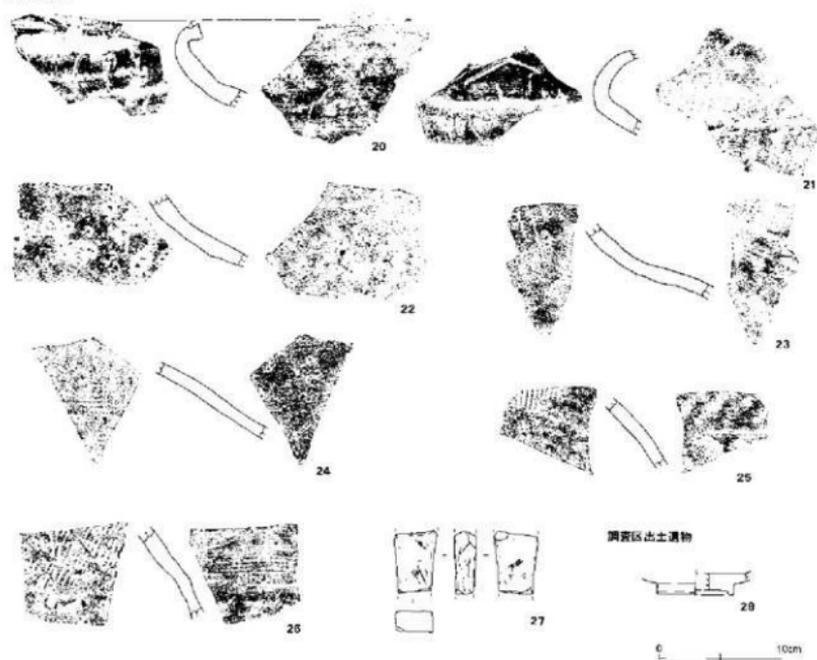


19



第22図 出土遺物(1)

湧山出土遺物



調査区出土遺物

第23図 出土遺物(2)

番号	種別	器種	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	残存	備考
1	縄文土器	深鉢				ABCEHI	普	褐		SD 5・7
2	縄文土器	深鉢				ABCE	普	明褐		SD 10・11・12・13・15・19・20
3	石器	打製石斧	長 —	幅 —	厚 2.4	石材 砂岩				SD 5・7・9
4	石製品	茶臼	長 —	幅 —	厚 3.0	石材 安山岩				SB 1 No.1
5	石製品	砥石	長 —	幅 —	厚 1.3	石材 凝灰岩				SE 1
6	石製品	砥石	長 5.0	幅 —	厚 1.3	石材 凝灰岩				SE 1
7	硬質陶器	甕				AH	良	黒褐		SE 2 内外面に自然釉
8	硬質陶器	甕				AH	良	浅黄緑		SE 2 外面に自然釉
9	硬質陶器	甕				AH	良	にぶい黄緑		SK 1 外面に自然釉
10	青磁	皿	(12.6)			AC	良	灰オリーブ		SD 5
11	青磁	椀				AC	良	青灰		SD 5・8・9 蓮井文
12	青磁	椀		(6.8)		AC	良	灰オリーブ	20%	SD 12
13	硬質陶器	坏		(8.4)		A	良	灰		SD 23 内面に釉
14	硬質陶器	灯明皿	(9.4)	(4.4)	2.2	A	良	暗赤褐	30%	SD 1
15	軟質陶器	鉢				ABCE	普	赤褐		SD 23

第2表 出土遺物観察表(1)

番号	種別	器種	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	残存	備考
16	硬質陶器	鉢				AC	良	灰白		SD 15・19
17	軟質陶器	鉢				ABCEH	普	朗褐		SD 19
18	軟質陶器	鍋				ABCE	普	黒褐		SD 10・11
19	軟質陶器	鍋				ABCE	普	にぶい橙		SD 5・7
20	硬質陶器	甕				AH	良	暗赤褐		SD 10・11・12・13・15・19・20 常滑焼
21	硬質陶器	甕				ABH	良	にぶい橙		SD 9 常滑焼 外面に自然釉
22	硬質陶器	甕				AH	良	暗赤褐		SD 5・8・9 常滑焼 外面に自然釉
23	硬質陶器	甕				AH	良	暗赤褐		SD 5 常滑焼
24	硬質陶器	甕				AH	良	暗赤褐		SD 22・23 常滑焼
25	硬質陶器	甕				AC	良	灰		SD 12 外面に自然釉
26	硬質陶器	甕				ABCH	普	にぶい橙		SD 5・8・9
27	石製品	砥石	長一	幅 3.0	厚 1.7	石材 凝灰岩				SD 14
28	青磁	椀		(6.0)		AC	良	灰オリーブ		

第3表 出土遺物観察表(2)

IV 調査のまとめ

前章まで述べてきた通り、今回の調査では掘立柱建物跡1棟、井戸跡3基、土坑14基、溝26条、自然流路跡1条等が検出された。遺構の時期は中世を主体とし、近世或いは近代のものまで認められる。第24～26号溝は、今回確認された遺構の中では最も古いと思われる、古代まで遡る可能性もある。

掘立柱建物跡、井戸跡、溝の大部分は中世のものと思われる。その性格は明確ではないものの、館跡の可能性が最も高いと考えられる。出土した常滑焼の甕や青磁椀等から、館に関わる可能性のある遺構は13世紀頃を上限とすると思われる。また今回、調査とあわせて祠道山内の踏査を行ったところ、区画溝の可能性が高い溝状遺構が確認された。遺構は、調査区別を区画する状況である。ただし、調査区内の溝とは正方形に完結しない位置にある。踏査により、その他にも溝状遺構の存在が予想されるため、祠道山全体に一連の開発が及んでいる可能性が高い。

押切川を挟んで南の対岸には、埼玉県指定史跡にもなっている人見館跡がある。遺構は東西2つの郭に分かれ、堀・土塁が巡らされていたという。現在西郭の堀・土塁の一部が遺存している。人見氏は鎌倉時代の豪族

で、幾多の武士を輩出している。そして、館跡の西109mに最勝寺、北54mに弁天の小祠、南方327mに時宗の一乗寺があり、人見氏累代の墓がある。また、付近には政所、四郎司、元屋敷、馬場等の館に関わると思われる小字がある。室町時代には、庁幕和上杉氏3代の子憲武が館跡を修築し、ここに拠ったとされる。同時代には、仙元山の麓にある押切道跡で館跡と考えられる遺構があり、また上杉房憲が創建した昌福寺等がある。このように吹張道跡周辺の人見地域には、鎌倉時代から室町時代、そしてそれ以降にかけて多くの遺跡、史跡が分布しており、人見地域の重要性が窺える。

吹張道跡は今回の調査により、河川に隣接した祠道山及びその斜面を開発した館跡の可能性が高いことが明らかとなった。その構造は、祠道山の踏査により確認された溝状遺構と調査区内で確認された区画溝との関係から、不整形の区画になるとと思われる。また、その他にも区画溝が存在する可能性が認められたことや、調査区内における溝のあり方から、祠道山全体が単郭ではなく複郭構造をもつ施設として開発されていることが推定される。館の時期については、その上限

が推定されるものの明確ではない。遺構の一部は、上杉氏の一族が拠った室町時代以降に下る可能性もある。しかし、遺跡や史跡の分布状況からみて、鎌倉時代には既に周辺はかなり開発されていたとみるべきであり、館の成立もその頃の可能性が高いと思われる。わずかな出土遺物からもそれは肯定し得る。吹張遺跡と密接な関係を持つ対岸の人見館跡は、人見地区において最も重要な遺跡と考えられるが、これまでに発掘調査が

行われておらず、その実態は明らかではない。今回の調査は、人見館跡を考える上でも大きな成果であると言える。

最後に改めて、この発掘調査に深いご理解とご協力を頂いた深谷市建設部や近隣住民の方々を始め、吹張遺跡の発掘作業、整理作業に携わり、文化財を記録保存して後世に残すことにご尽力頂いた皆様に敬意を表したい。

〈参考文献〉

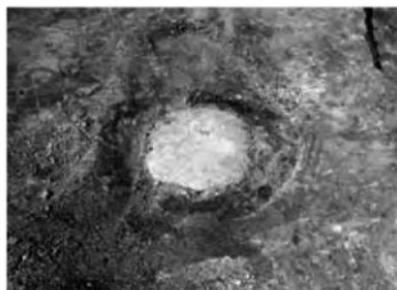
- 青木克尚・櫻井和哉 1996 『深谷城跡（第4次）』埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第49集
青木克尚・知久祥子 1997 『深谷城跡（第5次）』埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第51集
青木克尚・櫻井和哉 1997 『深谷城跡（第6次）』埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第52集
栗原慶多 2007 『埼玉県深谷市人見出土の骨蔵器』『東国史論』第21号 群馬考古学研究会
古池晋祿 1993 『押切遺跡』埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第36集
古池晋祿 1993 『深谷市内遺跡V』埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第37集
古池晋祿 1994 『疋鼻和城跡（第3次）』埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第38集
古池晋祿 1999 『疋鼻和城跡（第4次）』埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第59集
埼玉県教育委員会 1988 『埼玉の中世城館跡』
澤出晃越 1985 『割山遺跡（第4次）』埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第10集
澤出晃越 1986 『東方城山遺跡群』埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第13集
澤出晃越 1987 『割山西遺跡』埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第14集
澤出晃越 1988 『東方城跡』埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第20集
知久裕昭 2002 『深谷城の再検討』『埼玉考古』第37号 埼玉考古学会
知久裕昭 2004 『深谷城跡（第7次）』埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第69集
知久裕昭 2004 『侍町遺跡』埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第70集
永井智教・吉田智哉ほか 2006 『深谷城跡（第8～11次）』埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第77集
深谷市史編纂会 1969 『深谷市史（全）』

写真図版

图版 1



迹



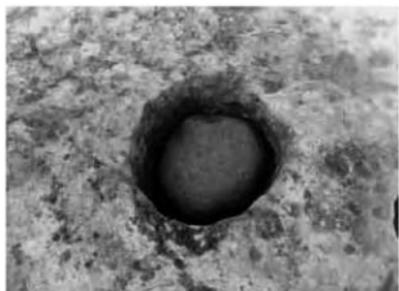
第1号掘立柱建物跡 P 1 (1)



第1号掘立柱建物跡 P 1 (2)



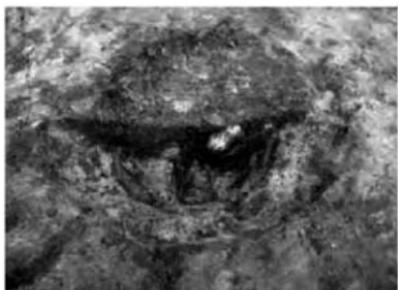
第1号掘立柱建物跡 P 2 (1)



第1号掘立柱建物跡 P 2 (2)



第1号掘立柱建物跡 P 3 (1)



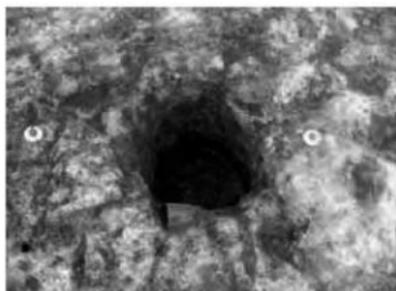
第1号掘立柱建物跡 P 3 (2)



第1号掘立柱建物跡 P 4 (1)



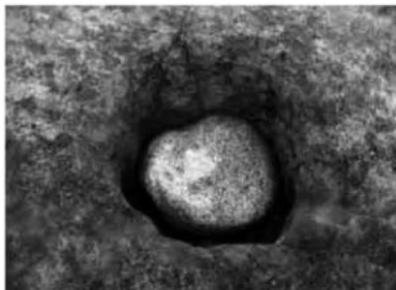
第1号掘立柱建物跡 P 4 (2)



第1号掘立柱建物跡 P 5



第1号掘立柱建物跡 P 6 (1)



第1号掘立柱建物跡 P 6 (2)

图版 3



第 1 号井戸跡土层断面



第 1 号井戸跡



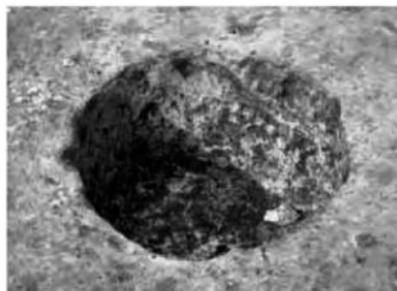
第 2 号井戸跡 (1)



第 2 号井戸跡 (2)



第 3 号井戸跡



第 1 号土坑



第2号土坑



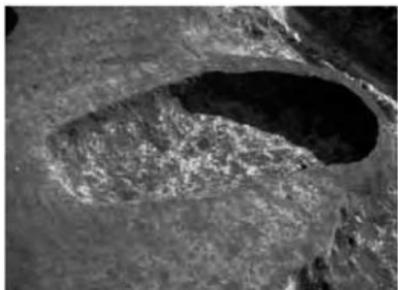
第3号土坑



第4号土坑



第5号土坑



第6号土坑

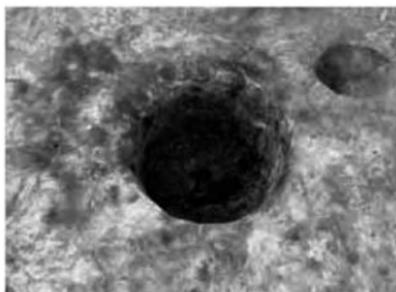


第7号土坑

图版5



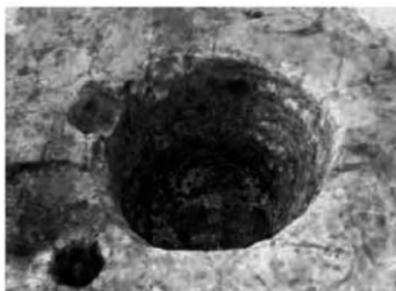
第8号土坑



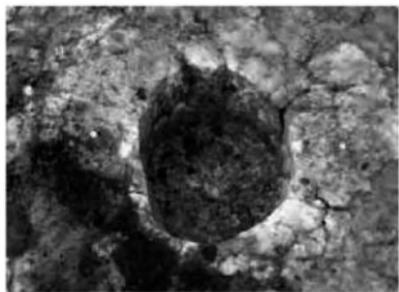
第10号土坑



第11号土坑



第12号土坑



第13号土坑



第15号土坑



第1号沟



第2号沟



第5~9·15·19号沟



第9~11号沟



第12·13号沟



第14·15号沟

图版 7



第 22·23 号沟



第 22·23 号沟土层断面



第 24~26 号沟 (1)



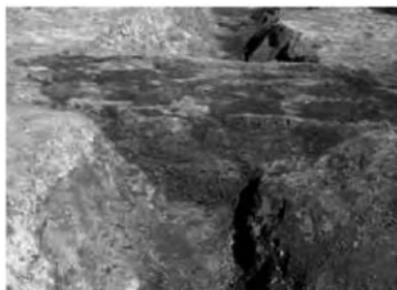
第 24~26 号沟 (2)



第 24~26 号沟土层断面 (1)



第 24~26 号沟土层断面 (2)



第24～26号満土层断面(3)



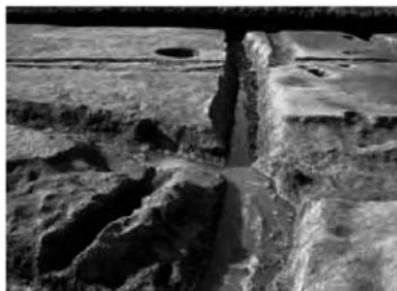
第24～26号満土层断面(4)



調査区中央部(1)



調査区中央部(2)



調査区中央部(3)



調査区中央部(4)

図版9



調査区北部



調査風景 (1)



調査風景 (2)



調査風景 (3)



調査風景 (4)



祠道山内溝状遺構



出土遺物 (1)



出土遺物 (2)



出土遺物 (3)

報告書抄録

ふりがな	ふきはりいせき							
書名	吹張遺跡							
副書名								
巻次								
シリーズ名	埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	第93集							
編著者名	知久裕昭							
編集機関	深谷市教育委員会							
所在地	〒366-0823 埼玉県深谷市本住町17-3 TEL. 048-572-9581							
発行年月日	2007(平成19)年10月31日							
ふりがな 所取遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 (° ' ")	東経 (° ' ")	調査 期間	調査 面積	調査 原因
		市町村	遺跡					
吹張遺跡	深谷市入見字吹張 1467-1 他	11218	073	36 17 39	139 26 66	20070118 ~ 20070316	2,500 m ²	農業集落 排水処理 施設建設
所取遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
吹張遺跡	城館跡	中世 近世	掘立柱建物跡 1棟 井戸跡 3基 土坑 14基 溝 26条		縄文土器 石器 陶磁器	館跡の可能性のある区画溝、 建物跡、井戸跡等を確認		

埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書 第93集

吹 張 遺 跡

印 刷 平成19年10月27日

発 行 平成19年10月31日

発 行 埼 玉 県 深 谷 市 教 育 委 員 会
